

平成24年度
環境省
中部地方
環境事務所
請負

平成24年度
E S D推進のための環境学習施設ネットワーク会議実施業務
環境教育等実務者ミーティング

報告書

平成25年3月

公益社団法人日本環境教育フォーラム

目 次

1. 業務の概要	1
(1) 業務の目的	1
(2) 業務の内容	1
2. 会議の開催概要	2
3. 参加者の募集及び事前アンケートの実施	3
(1) 参加者の募集	3
(2) 事前アンケートの実施	5
4. 会議の実施	12
(1) 第1日目（3月13日（水））	12
全体会議 第1部	12
分科会	13
全体会議 第2部	15
(2) 第2日目（オプション）（3月14日（木））	17
全体会議	17
5. 事後アンケートの実施	19

資料集

実務者ミーティング出席者	26
環境教育等促進法の改正と今後の利活用について	32
持続可能な開発のための教育（ESD）の10年と関連した動きについて	33
中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部）のESDの取組について	34
安藤百福記念自然体験活動指導者養成センター この3年間の具体的取り組み	42
浅間山麓における地域連携による生物多様性の保全活動	52
事前アンケート集約（配布用）	64

1. 業務の概要

(1) 業務の目的

環境教育等推進法が改正され（2012年10月施行）、地域における協働の推進を強力に後押しする規定が追加された。また、2011～2013年にかけて小中高等学校の学習指導要領が改定され、E S Dに関する内容が新たに盛り込まれる。このことを受け、中部地方（東海三県、北陸三県及び長野県）の各地域における環境学習の拠点である環境学習施設（自然学校等を含む。）及び、関係自治体のネットワークを設立することで、各施設・各地域における活動の現状、今後の活動方針などの情報共有・意見交換を図るとともに、2014年に愛知県で開催されるE S Dユネスコ世界会議を契機として環境学習施設を活用した環境教育・E S Dをさらに推進するため、各施設及び各地域が連携するための情報共有、ネットワーク形成を目的とした場として、会議を開催するもの。

(2) 業務の内容

上記目的を達成するため、平成25年3月13日（水）及び14日（木）の2日間にわたって、長野県小諸市の安藤百福記念自然体験活動指導者養成センターにおいて環境教育等実務者ミーティングを開催した。

2. 会議の開催概要

会議の開催概要（スケジュール）は下記の通り。

13 日	13:00～13:30	受付	発表者など（敬称略）
	13:30～13:40	開会、挨拶 趣旨説明等	環境省中部地方環境事務所 統括環境保全企画官 近藤亮太 環境対策課企画係長 高木丈子 ＜総合司会進行＞ 日本環境教育フォーラム常務理事 川嶋直
	13:40～14:15	【話題提供：共通 1】 ・環境教育推進法の改正と今後の活用方法について 質疑：10 分	環境省中部地方環境事務所 近藤亮太
	14:15～15:00	【話題提供：共通 2】 ・持続可能な開発のための教育（ESD）の 10 年と関連した動きについて ・中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）の ESD の取組について 質疑：10 分	環境省中部地方環境事務所 高木丈子 中部環境パートナーシップオフィス チーフプロデューサー 新海洋子
	15:15～16:20	【分科会 1：行政関係】 テーマ：施設の持続的利用と発展的活用策について（教育機関との関係づくりなど）	＜コーディネーター＞ 分科会 1: 中部環境パートナーシップオフィス 新海洋子
	15:15～16:20	【分科会 2：民間関係】 テーマ：経営と質の確保・人材育成など	分科会 2: やまぼうし自然学校 加々美貴代
	16:30～17:30	全体共有 テーマ：持続可能な社会を創るための多様な主体による環境教育を進めるには	＜司会＞川嶋直
	17:30	閉会	

14 日	9:00～10:05	安藤百福記念自然体験活動指導者養成センターの取組報告及び施設見学	安藤百福記念自然体験活動指導者養成センター 小島真一
	10:05～11:30	【事例報告】 浅間山麓国際自然学校（公園管理団体）より 「浅間山麓における地域連携による生物多様性の保全活動 国立公園管理団体と風景地保護協定 経緯と現状」 意見交換	浅間山麓国際自然学校 代表理事 橋詰元良
	11:30	解散	

なお、会議は環境省中部地方環境事務所が主催し、安藤百福記念自然体験活動指導者養成センターの協力、公益社団法人日本環境教育フォーラムの運営により行われた。

3. 参加者の募集及び事前アンケートの実施

（1）参加者の募集

上記開催概要を関係先に送付し、会議の参加者を募集するとともに、日本環境教育フォーラムのウェブサイトにおいても広報を行った。



JEEFのご紹介 | 事業内容 | 企業の方へ | 教材のご紹介 | 入会案内 | お問い合わせ | リンク

ホーム > 中部地方環境教育等実務者ミーティング

中部地方
環境教育実務者ミーティング

生物多様性
まんだら
カードゲーム

・メールアドレス登録・解除ページ

メールマガジン配信(不定期)登録は無料です。まぐまぐ、カブライト、meimaより発行中です。

中部地方環境教育等実務者ミーティング

環境教育等促進法が改正され(2012年10月施行)、地域における協働の推進を強気に後押しする規定が追加されたことや、2011～2013年にかけて小中高等学校の学習指導要領が改定され、ESDに関する内容が新たに盛り込まれる。このことを受け、中部地方(愛知、岐阜、三重、富山、石川、福井、長野)の各地域における環境学習の拠点である環境学習施設(自然学校等を含む。)及び、関係自治体のネットワークを設立することで、各施設・各地域における活動の現状、今後の活動方針などの情報共有・意見交換を図ることができる。そのため、2014年に愛知県で開催されるESDユネスコ世界会議を契機として環境学習施設を活用した環境教育・ESDをさらに推進するため、各施設及び各地域が連携するための情報共有、ネットワーク形成を目的とした場として、今年度標記会議を開催します。

■日程

3月13日(水)13:30～17:30及び14日(木)9:00～11:30(予定)

(ただし、14日午前は希望者のみのオプション:施設見学と現地の活動紹介を予定)

■場所

[安藤百福記念自然体験活動指導者養成センター](#)(長野県小諸市大久保1100)

■内容

- ・ 環境教育等促進法改正の内容及び今後の展開について
- ・ ESDに関する国の施策や国際会議の状況について
- ・ 環境教育施設等と制度の活用についての意見交換 など

■参加予定者

- ・ 対象地域:愛知、岐阜、三重、富山、石川、福井、長野
- ・ 上記対象地域にて環境教育の実践を図っている自治体ご担当者
- ・ 施設運営担当者、民間事業者の皆様

■申込方法

下記開催概要ダウンロードの上、書類中の申込み用紙でお申し込みください。

開催概要 [PDF](#) 74kb / [PDF](#) 157kb

主催:環境省中部地方環境事務所

運営:公益社団法人 日本環境教育フォーラム

協力:安藤百福記念自然体験活動指導者養成センター

(2) 事前アンケートの実施

参加者の募集と同時に「環境教育及び持続可能な開発のための教育（E S D）に関するアンケートを実施し、関係する施設・団体における環境教育の取り組み状況やE S Dに関する理解度を調査した。

アンケート項目は次の通りである。

環境教育及び持続可能な開発のための教育（ESD）に関するアンケート

施設・団体名称	
連絡先	〒 住所： TEL： FAX： E-mail：
施設設置者	
施設管理者 及び管理者連絡先	管理者名： 〒 住所： TEL： FAX： E-mail： ※設置者及び施設連絡先と異なる場合のみ御記入ください。

平成 25 年 2 月末日時点の情報を記載ください。

1 貴施設・団体についてお聞きします。差し支えない範囲でお答え下さい。

1) 貴施設・団体の設置時期及び設置目的

設置時期：昭和・平成 年 月 設置目的：

2) 貴施設・団体で環境教育に従事するスタッフの人数 () 人

3) 貴施設の年間の予算規模（施設管理・人件費等の合計）をお教えてください。

☐ 0～500 万円 ☐ 500 万から 1 千万円 ☐ 1 千万から 2 千万円 ☐ 2 千万以上

2 環境教育の取り組みについてお聞きします。（複数回答可）

1) どのようなタイプの環境教育を実践されていますか。該当する分野にチェックをいれてください。

☐ 環境全般・環境教育

☐ 温暖化対策・エネルギー

☐ 自然環境・体験・ふれあい

☐ 3R・廃棄物

☐水環境

☐他（ ）

2) 上記チェックされた分野の内容をお聞かせください。

3) 協働で行われている環境教育活動がある場合は、その協働相手についてお聞かせください。

☐地域の市民団体と連携して実施している ☐地方自治体と連携して実施している

☐企業と連携して実施している ☐他（ ）

4) 3) にてチェックされた方のみお答えください。どのような内容で、どのように役割分担して実施していますか。また、現在の課題についてもお教え下さい。

5) 3) にてチェックをされなかった方のみお答え下さい。なぜ、協働での環境教育活動が行われないのかその理由・原因についてお教え下さい。

3. 「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律（環境教育促進法）」についてお聞きします。

1) 平成 24 年 10 月に改正された環境教育促進法の改正内容についてご存じですか？

☐知っている

☐知らない

2) 1) で知っているとお答えの方にお聞きします。改正内容で新しく認定、登録制度ができましたが貴団体・施設で認定等利用したいと思っている法制度はありますか。

☐環境教育等支援団体の指定

☐自然体験活動等の機会の場の認定

☐協働取組推進のための協定制度

☐その他（ ）

3) 上記 2) でチェックをされなかった方にお聞きします。その理由は为什么呢。 (複数回答可)

☐内容がよくわからない ☐認定を受けることにメリットを感じない

☐手間がかかる ☐その他（ ）

4. 持続可能な開発のための教育（ESD）についてお聞きします。

1) 「持続可能な開発のための教育（ESD）」を知っていますか。

☐ある→いつ頃（ ） ☐ない

2) 貴施設・団体において、ESD としてあてはまる活動がありますか。

☐ ある → 具 体 的 に ど の よ う な も の で す か
()

☐ ない

3) ESD を現在行っている活動に取り入れる予定（希望含む）はありますか。

☐ ある

☐ ない

4) ESD を現在の活動に組み入れるためには、何が必要だと思われますか。

その他、ご意見・ご質問などありましたらご自由にお聞かせ下さい。

ご協力ありがとうございました

事前アンケート調査結果の概要は以下の通りである。

- ・アンケートは、中部地方環境事務所管内（富山県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、愛知県、三重県）の環境教育関係施設を関係自治体からの情報や環境省のふれあい施設のリスト等から該当すると思われる290組織・施設に対して行った。そのうち、121の組織・団体から回答があった。
- ・環境教育の取り組みの中では自然環境、体験、ふれあいを挙げるところが多く、3分の2の団体で取り組まれている。次いで環境全般や環境教育、水環境に関する分野を主として取り組みを進めているとの回答があった。
- ・協働の相手先としては、最も多いのは地域の市民団体であり、回答の約半数を占めていた。そのほか、約3分の1の団体が自治体を挙げていたが、企業との協働については、19と最も少なく、企業は協働の相手先としては開拓が余り出来ていない様子が見えてくる。
- ・環境教育等促進法の改正内容については、知っていると答えた団体は約3分の1に留まっており、環境教育に取り組み団体への浸透度はまだ低いことがうかがわれた。
- ・また、環境教育等促進法に絡めて、利用したい法制度がない理由を尋ねたところ、内容がよくわからないという回答が約半数に上った。
- ・ESDについての理解については、知っているという答えと知らないという答えが同数であった。また、ESDが既存の活動に含まれているかどうか、今後取り組みたいと思っているかどうかはほぼ半数で別れる結果となった。

全体として、環境教育等促進法、ESDともに理解が進んでいるところと、ほとんど理解されていないところの格差が大きく、今後両者の取り組みが進むためにはその格差を受けられるような手立てが必要で、そのためには環境省だけではなく、実際に取り組んでいる組織や団体の事例などをその団体の協力を得ながら進めることが必要と考えられた。

アンケート集計表

		富山	石川	福井	長野	岐阜	愛知	三重	合計
(アンケート 回答数)		13	5	10	13	22	51	7	121
スタッフ数	0	1		1	1	2	7		12
	1					2	12		14
	2	3		2		4	3	1	13
	3	1	2	2	1	5	3	1	15
	4			2	3		5	1	11
	5				2		1	1	4
	6～10	3	1	3	2	4	8	3	24
	11～20	1	1		3	4	7		16
	21～	2				1	4		7
	回答なし	2	1		1		1		5
取組	1 環境全般・環境 教育	4	3	3	5	8	15	2	40
(複数回答あり)	2 自然環境・体 験・ふれあい	11	4	5	12	13	30	7	82
	3 水環境	4	1	2	1	7	16	2	33
	4 温暖化対策・エ ネルギー			1	1	2	5	1	10
	5 3 R・廃棄物	3		1	1	5	12	1	23
	6 その他	1	1	1	2	2	6		13
	回答なし						2		2
協働	1 地域の市民団体	6	2	4	6	9	25	6	58
(複数回答あり)	2 企業	1	1	1	5	3	7	1	19
	3 地方自治体	3	2	3	7	5	17	6	43
	4 その他		2	2	2	2	7	1	16
	回答なし	7		2	1	9			19

		富山	石川	福井	長野	岐阜	愛知	三重	合計
促進法改正内容理解	1 知っている	6	2	3	4	5	18	3	41
	2 知らない	6	3	6	8	17	33	4	77
	回答なし	1		1	1				3
利用したい法制度	1 環境教育等支援団体の指定	2	1			2		1	6
(複数回答あり)	2 協働取組推進のための協定制度					1	1	1	3
	3 自然体験活動等の機会の場の認定	4	1		1	2	3		11
	4 その他				1				1
上記に答えなかった理由	1 内容がよくわからない		1	3	1	6	20	1	32
(複数回答あり)	2 手間がかかる				1				1
	3 認定を受けることにメリットを感じない		1		2	2	11		16
	4 その他	1		1	1	1	7		11
E S D理解	1 知っている	7	2	5	8	8	25	2	57
	2 知らない	5	3	4	4	14	22	5	57
	回答なし	1		1	1		4		7
E S Dに当てはまる活動	1 ある	9	2	2	7	8	24	3	55
	2 ない	2	3	6	4	11	21	3	50
	回答なし	2		2	2	3	6	1	16
E S Dを取り入れる予定・希望	1 ある	4	1	2	5	6	21	2	41
	2 ない	3	4	5	4	12	22	3	53
	回答なし	6		3	4	4	8	2	27

なお、事前アンケート結果の詳細については、資料集を参照。

4. 会議の実施

参加者の申込みは38名。当日の欠席等もあり、総参加者数は37名となった。（参加者名簿は資料集のとおり）

（1） 第1日目（3月13日（水））

全体会議 第1部

開会

13時30分に環境省中部地方環境事務所環境対策課 高木企画係長が開会を宣言、

司会者（川嶋日本環境教育フォーラム常務理事）が紹介された。



話題提供①

次に、環境省中部地方環境事務所 近藤統括環境保全企画官より「環境教育等促進法の改正と今後の利活用について」説明がなされた。

質疑応答では、環境教育とE S Dの関係や学校においてE S Dを行っていく上での問題などが取り上げられ、学校教育だけでなく、家庭や地域などあらゆる場所でE S Dが行われる必要性が共有された。

話題提供①の終了後、司会者の提案により、アイスブレイキングの意味もあり、前後の列同士の自己紹介タイムと先の説明に関する意見交換の時間が設けられた。

話題提供②

引き続き、高木係長より、「持続可能な開発のための教育（E S D）の10年と関連した動きについて」、また、中部環境パートナーシップオフィス 新海チーフプロデューサーより「中部環境パートナーシップ（E P O中部）のE S Dの取組について」説明がなされた。



分科会

休憩後、15時15分より、分科会に分かれて討議が行われた。分科会は行政関係と民間関係の二つに分けられたが、どちらの分科会に参加するかは出席者の意思に委ねられた。

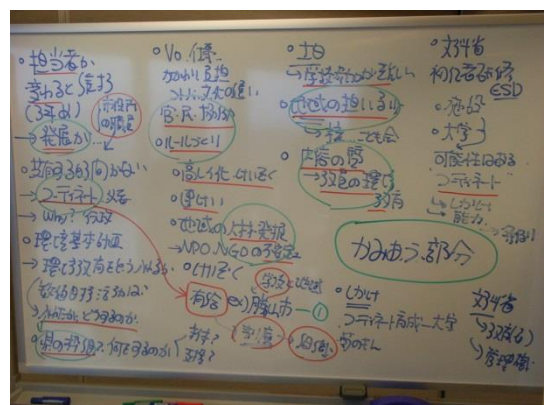
分科会①行政関係

参加者は主として行政もしくは関係の組織、団体からの出席者であったが、一部大学関係の出席者も参加し、合計10名の参加であった。コーディネーターはEPO中部の新海氏が務めた。

参加者それぞれから、自団体等の取組の内容と課題について報告された。

報告された主な課題は次の通り。

- ・教育現場に環境教育が定着していない。
- ・言葉が難しい。役所によっても言い方が違うため、現場レベルでは非常にわかり久々なっている。
- ・関係市民団体同士でのお互いの活動に関する許容量が少ない。例えば、太陽光なら太陽光しか認めないなど。協働での事業実施は難しく調整が困難。
- ・学校現場における環境教育やESDの優先順位が高くない。その効果が明確に示されていない。
- ・市民や先生も環境教育やESDの重要性は理解できるものの、何をしたらよいかわからない。
- ・先生もESDをやりたいと思っているが、その時間がない。
- ・自治体の担当者が替わるとゼロからのスタートとなってしまう。
- ・関わっている団体や個人の質がまちまち。
- ・各主体をつなげるコーディネーターが育たない。人材もボランティアだと高齢者となってしまう、若い人が参加出来ないことが多い。予算をつけないと進まない。
- ・自治体によっては、地域にコーディネーターを置くようにしているところもある。ただ、自治体トップの理解がないと、そのようなことは難しい。
- ・生物多様性を伝えられる人は60代。それより若いと自身の体験に自信が持てない。



出席した自治体担当者が様々な関係者が参加した活動において苦労した経験を踏まえて、「混ぜると危険」というキーワードが紹介され、他のメンバーの共感を得ていた。ESD を取り込んで活動を推進するに当たっては、多くの人材が協働で活動することにより、よりよい活動が展開されることにつながるが、その調整役に当たる自治体の職員の方などは、自己の価値観が異なる者を調整、繋ぐために大変な労力を割いていることがうかがわれ、それは地域で必要とされているコーディネーターも同様課題を抱えていることが推測される。

分科会②民間関係

民間関係の分科会には21名が参加した。コーディネーターは、やまぼうし自然学校の加々美代表理事が務めた。以下の項目に沿って、コーディネーターが進行。参加者よりの意見を以下にまとめた。

■参加者自己紹介

分科会2の参加者から、各自簡単に自己紹介を行っていただいた。

■学校へのアプローチ方法についてのアイデア

- ・「エコ隊」として学校に環境教育の指導者を派遣している（松本市）
- ・市役所経由で教育委員会に困っていることを聞き、助けるスタンスで手伝う（安曇野市）
- ・地道に学校に通って説明。お金にならないことでもやる。PTA層を捕まえる（泰阜村）
- ・小学校単位の集落では、学校も地域も含めた実行委員会を作った（泰阜村）
- ・みんなで参画してみんなで決めるというプロセスを作る（泰阜村）

■環境教育・ESDを推進していくための課題

- ・学校、地域、行政をコーディネートする人材が不足している
- ・ESDという言葉が、行政と教育現場で共通した認識ではない
- ・そもそも教員はESDという言葉を知らない
- ・大事だが実感（現場部分）としてどう伝えるか



■行政と教育現場のギャップを埋めていくためには

- ・埋めるモチベーション（メリット）が生まれる必要がある
- ・何をメリットとするかを考える（ex.事業収入）

- ・分かりやすいSDのイメージが作れるとよい（ESDのイメージがよく分からない）
- ・地域それぞれ課題が違うので、地域ごとにSDのイメージを作るのはどうか

■まとめ

- ・コーディネーターがいない
- ・ギャップ（モチベーションが必要）
- ・わかりやすいSDを（イメージ）
- ・メリット（目に見えるもの）
- ・ESDの言葉の使い方（共通認識）
- ・お金



全体会議 第2部

全体共有

16時30分より、再び全員が集まって川嶋氏の司会進行の下、課題の全体共有が行われた。

第1分科会からは福井県安全環境部の黒川氏、第2分科会からは安曇野環境市民ネットワーク田村座長が代表して各分科会の議論を報告した。



17時より17時15分まで、司会者の指示で地域（県）ごとに集まって、地元に戻っても交流が図れるよう、名刺交換を行った。



その後、１７時１５分より、司会者より今までの議論の総まとめが行われた。



福井県勝山市で有給のコーディネーターが小学校をつないでプロジェクトを行い、そこに地域の人を巻き込んで成功している事例や安曇野市の３０団体が行政や学校と活動している事例を踏まえて、小さな単位でやることが、効果が上がっていることが指摘され、これからは Think local, Act local だとされた。

また、分科会の中で出された「混ぜると危険」という考え方には、確かにそういうリスクはあるものの、「混ぜるといいぞ」という姿勢で行きたいと総括された。

最後に、本日の会議を契機として、官民の関係者のネットワークを維持・発展させていくことが確認されて、閉会となった。

その後、事後アンケートの記入が行われ、散会となった。

(2) 第2日目 (オプション) (3月14日 (木))

全体会議

① 安藤百福記念自然体験活動指導者養成センターの取組報告及び施設見学

9時より、同センター小島氏より、VTR及びスライドを使って同センターの取組が報告された。



その後、9時45分より厳寒の中、会議室を出て、センターの屋外施設等の見学を行った。



② 【事例報告】 浅間山麓国際自然学校の取組

10時5分よりNPO法人浅間山麓国際自然学校の橋詰代表理事より同自然学校の取組が報告された。



橋詰氏の説明のポイントは次のとおりである。

- ・ 同自然学校の範囲は7市町村に及び、おのずから熱の高いところ、低いところがある。うまく連携していく必要がある。
- ・ 民間活動支援方策検討委員会を作って活動した。
- ・ 地域のコーディネーターとなるべく、(新参加に近い自分たちが声をかけて) 関係者に集まってもらうには、それぞれの団体の拠点に出向いてお願いする

必要がある。通知とか電話では来てくれない。

- ・ 行政の人と一緒に動けるとベター。
- ・ たたかれながら作ってきた。打たれ強くないと病気になってしまう。
- ・ コーディネーター的な人がいたことが、成功の要因だった。
- ・ ワークショップをやればいろいろな人が集まる。そのような場では、人の「相性」が問題になる。極論すれば、相性が悪い人がいても放っておけばよい。多くの方が集まり、議論を重ねることにより、落ち着くところに落ち着く。
- ・ ワークショップをやる場合はファシリテーターが大事。参加者には言いたいことを言ってもらわなければいけない。また、一定のルールを作るなどして、人の意見を否定しないように注意する必要がある。

今回の紹介事例は、法律の枠をうまく利用して地域のコーディネーターとしての活動を行い、地域作りをまとめていった好事例であった。地域の課題をきちんと認識し、地域の人たちで考え行動しやすくなるような丁寧なプロセスづくりは、他の活動団体の環境保全活動やESDを展開する上で大きく参考になったものと思われた。

5. 事後アンケートの実施

第1日目の終了時、参加者に対し、会議の内容についてのアンケートを行った。
アンケートの内容は以下のとおり。

H24 環境教育等実務者ミーティング				
<u>～ 環境教育等実務者ミーティングに参加して～アンケートのお願い</u>				
◆属性(該当に○)	20代・30代・40代・50代・60代・70代以上 / 都道府県：			
◆ご所属のセクター【該当に○】	NPO/NGO	企業	行政	財団・団体・組合・特殊法人など 教育機関等 その他()
◆参加動機				
●本日の内容について(該当数字に○)				
1. 全体会1 環境教育等促進法について				
	1. 非常に良かった	2. 良かった	3. 普通	4. あまり良くなかった 5. 良くなかった
	<理由>			
2. 全体会2 DESDについて				
	1. 非常に良かった	2. 良かった	3. 普通	4. あまり良くなかった 5. 良くなかった
	<理由>			
3. 分科会について				
参加した分科会(該当に○)	分科会【行政関係】	分科会【民間関係】		
	1. 非常に良かった	2. 良かった	3. 普通	4. あまり良くなかった 5. 良くなかった
	<理由>			
4. 全体共有について				
	1. 非常に良かった	2. 良かった	3. 普通	4. あまり良くなかった 5. 良くなかった
	<理由>			
■今回のミーティングについてのご意見、ご感想(手法・形態【やり方・進め方】など)				
■環境教育関連法やESD関係のセミナー事業について、今後どのような事業であれば参加したいですか				
■本ミーティングに参加して参考・有益となった内容があれば教えてください				
■自由意見、ご要望その他				

アンケートの結果については、以下のとおり。

ESD についての具体的な内容についてのリクエストや今後の方向性として、継続的に頻度は高くないにしろ集まり意見交換をし、具体的な活動づくりを進めてゆけるような場となることを望むような意見もあり、時期やメンバーの参集などを検討し、今後同様な事業を内容をさらに

発展させた上で継続してゆく必要性はあると思われた。

	人	%
1.NPO/NGO	7	25%
2.企業	2	7%
3.行政	5	18%
4.財団・社団など	9	32%
5.教育機関	3	11%
6.無回答	2	7%
合計	28	100%

Q. 参加動機

- ・ESDや環境教育等促進法を学びたい
- ・他所の取組について情報収集したい
- ・自団体の取組に活かしたい

というものがほとんどであった。

Q. 本日の内容について

①全体会 環境教育等促進法について

1.非常に良かった	4	14%
2.良かった	13	46%
3.普通	7	25%
4.あまり良くなかった	2	7%
5.良くなかった	0	0%

<コメント・肯定的>

- ・資料、ありがとうございました。
- ・法律の変化がわかった。

- ・法の再確認ができた。
- ・促進法の内容がわかった。今後必要なところを詳しく調べようと思った。
- ・「協働」に期待が持てる。
- ・国の取り組み、施策について情報を得られて良かった。
- ・原点を伺えて良かった。

<コメント・否定的>

- ・なんとなくわかったが、メリットがよくわからなかった。

全体会 ESDについて

1.非常に良かった	3	11%
2.良かった	11	39%
3.普通	9	32%
4.あまり良くなかった	2	7%
5.良くなかった	0	0%

<コメント・肯定的>

- ・ESDのようすがわかりよかった。
- ・地域の取り組みについて理解できた。
- ・EPO中部の取り組みがわかりました。
- ・わかりやすい説明で共感しました。
- ・発表者の熱意が伝わった。
- ・実例が理解できた。

<コメント・否定的>

- ・話はよかったが、それが自分たちの活動にどうつなげられるのか不明。
- ・もう少しESDについて学べる内容であってもよかった。
- ・むずかしい。

② 分科会について

1.非常に良かった	3	11%
2.良かった	17	61%
3.普通	4	14%
4.あまり良くなかった	1	4%
5.良くなかった	0	0%

<コメント・肯定的>

- ・他の参加者のことが知れてためになった。もう少し時間があってもよかった。
- ・課題を共有できた。
- ・ESDについての課題がいろいろ洗い出せたのがよかった。
- ・環境教育に携わる中での共通の課題などについて、いろいろな立場の方から意見を聞いた、事例を伺うことができた。
- ・いろいろな人と知り合いになれた。
- ・課題が共有でき、同じ悩みが多くあり安心した。
- ・他業種の方との交流ができた。

<コメント・否定的>

- ・知っていること、想像できる範囲の話のみ。疑問は疑問のまま。
- ・ESDを進めるにあたっての課題はなんとなくわかったが、実際の活動にどう結び付けていくかはよくわからなかった。
- ・もう少し一つのテーマに絞って議論を深めたかった。(行政)
- ・私の団体と少し向かう方向が違うと感じた。地域連携の悩みがほとんどで、外向きの話がない。
- ・もう少し行政の方が多いとさらに参考になると思った。

③ 全体共有について

1.非常に良かった	6	21%
2.良かった	14	50%
3.普通	4	14%
4.あまり良くなかった	1	4%
5.良くなかった	0	0%

<コメント・肯定的>

- ・二つの分科会を合わせて、ポイント（課題等）がよくわかった。
- ・もともとESDそのものを理解していなかったので事態の理解はできた。
- ・モチベーションが少し上がった。
- ・行政の方々の考え方がわかったのはよかった。
- ・いろいろな方とつながりのきっかけを作ることができたのはよかった。
- ・行政と民間のお互いの共通の課題を持っていることがわかったので、今後一緒に考えていく機運が高まればよいと思った。
- ・この会の必要性が共有でき、次回開催に期待が持てた。
- ・地域ごとに集まっての名刺交換がよかった。

<コメント・否定的>

- ・あまり印象に残らなかった。

④ 今回のミーティングについて（手法・形態など）について

<コメント・肯定的>

- ・楽しく、自由な意見が出てよかった。
- ・年に1回くらい集まって情報交換できるとよい。
- ・川嶋さんの進行でスムーズにミーティングが進んだ。
- ・分科会でそれぞれの立場で意見交換ができたのが良かった。
- ・非常に濃い、重要な話がつまったとても良い機会だった。
- ・すばらしい施設でのミーティングでした。
- ・つながりができたので良かった。

<コメント・否定的>

- ・周知が遅く、時期が悪い。年度末は行政は参加できない。
- ・急な開催だったので、日程調整が難しかった。
- ・ESDはわかりにくい。
- ・全体会の時間を分科会に回して欲しかった。
- ・事前に調査し、分野の共通した人毎のより突っ込んだ議論を進めたかった。
- ・文科省、農水省など関係の行政の方が集まればよかった。
- ・学校の先生や教育委員会の方が来てくれると良い。生の声を聴きたい。

⑤ 今後どのような事業（会議）であれば参加したいかについて

- ・中部地域で取り組む状況ができたとき。
- ・E S Dとは。事例集。
- ・県単位での集まり。
- ・学校の先生たちと意見交換できる場。
- ・支援する側の事例紹介などの場。
- ・環境省、農水省、文科省が一堂に会するミーティング。
- ・E S Dを実施している現場を見る。
- ・北陸でのネットワーク作り。
- ・地域レベルでのセミナーも必要。
- ・ネットワーク構築のためのワークショップ的なもの。
- ・「E S Dの10年」の成果を出し合うフォーラム。
- ・国、県、行政とマンツーマンで相談できる場が欲しい。
- ・幅広い分野の関係者の集い。

⑥ 本ミーティングに参加して参考・有益になった内容

- ・情報共有の大切さ。
- ・各県の情報。
- ・環境省でも取り扱っていることが分かった。E P Oや登録制度があることを知った。
- ・愛知県がE S Dに前向きに取り組んでいることを知った。
- ・E S Dの概念について理解できた。
- ・コーディネートにどう公的資金を入れるか（という問題意識を持てた）。
- ・交流。
- ・様々な立場の方の意見や事例。E S Dの課題の気づきができたこと。
- ・学校の閉鎖性を痛感。
- ・課題の共有ができたこと。
- ・仲間に入れてもらった気分になれたこと。
- ・E S Dの基本が地域単位であることがわかった。

⑦ 自由意見、要望、その他

- ・地域で、行政、N P O、活動したい市民、教育関係の方などみんなで集まれるような場が作れるとよいと改めて感じた。
- ・学校、行政、民間を問わず、E S Dの視点が広まることを期待している。
- ・たくさんの頑張っている方がいることに脱帽。
- ・小学校5年生にわかる共通語を考えて欲しい。
- ・やれるというイメージを共有することに時間とお金を使いたい。地域に戻ってやってみま

す。

- ・学校の授業に入れるための各団体のスキルアップ講座を開催する予定。E S Dの話題も提供したい。

- ・体験機会の場の認定が増えるとあれもこれもE S Dとなり問題がないのかと感じた。

- ・会議の趣旨がいまいちよくわからなかった。